

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立鴻池小学校

| 教育目標 | | 心身ともに健康で 人間性豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成 | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--|---|------|-----|-----|------------------|---|---|---|--|
| 重点目標 | | ○児童・保護者・地域に愛され信頼される学校 | | | | | ○協働体制を築き変革を遂げる教師 | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 教 | 保 | 児 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 | |
| 基礎基本の徹底と授業改善 ① | ・基礎的、基本的な知識・技能を習得する ・授業力の向上に向けて校内研究会を実施する | ・授業数の補充：4・5・6年対象(金曜日の6校時) | ・年間12時間以上実施する | 100% | * | * | B | 計画的に時間数の確保をし、内容の充実が図れた。 | 来年度も計画的に時数確保に努め、内容の充実を図っていく。 | ・家庭学習と宿題との関連 低30分、中60分、高60分以上で宿題ができる内容なのか。 ・基礎学力向上のため、間雲に教え込むのではなく、過去資料より系統を分析した効率的なアプローチは、児童への配慮がうかがえ好感が持てる。 ・家庭の事情を配慮することを前提にした家庭学習の課題についても、児童一人ひとりに向き合っている現れに感じる。 ・家庭学習を促すための親の関わり方も重要。たとえばPTA主催でそのような講演会等を企画してはどうか。 ・児童の73%が目標時間を達成しているのはよい。 ・家庭学習の目標時間とそれに見合った宿題の内容は個人差があるので数値化することが難しいと感じた。しかし、習慣化する意味でも、学校で習ったことの復習においても大切なことなので、毎日この目標時間を目安とした宿題を出して欲しい。 ・朝学習、脳を活性化し一時間目の授業にスムーズに入りやすくするためにとても意義があると思う。計算や漢字など書くことを多く取り入れたり、競い合える内容にしたり、集中力を高められるようになればと思った。 ・宿題以外にもプリントを用意して、提出日を子どもに伝え、自分で計画的に取り組める学習を用意してもらったのはありがたかった。 | |
| | | ・家庭学習の目標時間(低30分中60分 高60分以上)とし、実現できるよう、学習計画の立て方指導する。家庭との連携を図り、宿題の内容の充実(達成率の向上、自主学習の工夫)をめざす。 | ・家庭学習の目標時間を達成する(低30分 中60分高60分以上)及び宿題内容の充実 | 100% | 77% | 73% | | 低学年(30分)・中学年(60分)については、概ね目標を達成できている。高学年も(90分から60分以上)としたことで、家庭の事情も配慮しながら、達成可能な課題の出し方を工夫することで、達成率が向上してきた。目標を達成できない児童への働きかけや家庭との連携を図ることを大切にしている。 | 家庭の事情も配慮しながら、児童各自が達成できる工夫した課題の出し方や、学習に向かう姿勢を育てるような取り組みをする。達成できない児童への働きかけや家庭との連携を図っていく。 | | |
| | | ・算数・国語の基礎基本の力をつけるため、朝学習を実施する。前年度の児童の学習分析を参考にした授業の復習プリントを活用する。 | ・基礎学力の向上 | 90% | * | * | | 前年度の児童の学習状況(まとめのテストなどで分析)を参考に、作成した朝学習のプリント集を効果的に活用し、学習内容を決めて、基礎基本が定着するように計画的に取り組んだ。さらに、各学年の学習内容の系統性を明確にし、基礎基本の定着を図る必要がある。 | まとめのテストの分析(数年分の児童の学習状況の傾向)を参考に、学習効果が上がるように、学年間の内容の系統性を考えた学習計画を立てる。基礎基本の習得だけでなく、習得したものを活用できる視点も取り入れた学習計画を立てる。 | | |
| | | ・校内授業研究を年4回、公開授業を1回行い、教師の自主研修も定期的に行う。 | ・研究テーマを目指し、共通実践に重点をおいた授業を公開する。 | 100% | * | * | | 今年度、研究発表会もあり目標を達成することができた。発表会に向け、学団研の日程を設け、計画的に研究をすすめることができた。今年度、自主研修は行えなかった。 | 今年度までの研究をふりかえり、来年度からの研究に向けて、アンケートをもとに研究全体会で話し合っていく。 | | |
| 学力の向上 ② | ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る | ・全学年で、朝読書の時間を週2回設ける。(1回10分) | ・1ヶ月の読書数を目標す。低8冊、中6冊、高4冊(1週間に低2冊 中1.5冊 高1冊) | 100% | 69% | 69% | B | 冊数で考えると、十分とは言えないところもあるが、子どもたちは積極的に読書に取り組んでいる。 | 来年度も現状のまま、週2回を「朝読書」として設定し、全職員の共通理解のもと、取り組んでいく。 | ・時間の確保が困難な中で、読書が習慣になるようなこの取組は、児童の語彙獲得という目標に叶うものと思慮する。 ・今後、過密なカリキュラムの中でも図書の時間が確保されることを望む。 ・語彙力の獲得において、読書に加え高学年は新聞のコラムや話題の記事など読んでみてほしいと思う。(朝の時間に) | |
| | | ・週1時間の図書の時間を確保する。読書指導員との連携をはかる。 | ・図書時間割の作成 パーコード化に向けての準備 読み聞かせ・委員会活動 | 96% | * | * | | 図書館が電子化され、読書環境がより整った。委員会活動とも連動させて、読み聞かせ活動や本の紹介を行い、児童の読書活動の推進を図るようにしてきた。今後、読書に興味がない児童への手立てを考えていく必要がある。 | 今後更なる全校生の読書活動の推進に向けて、より読書のため調べるための図書館の充実を図っていく。読書に興味がない児童には、図書の時間に具体的な目当てを提示するなどの手立てを行うようにする。 | | |
| 個に応じた教育 ③ | ・児童の実態を掴む ・支援体制の確立 ・特別支援学級の児童理解 ・特別支援学校との交流 | ・年2回以上各クラスの実態や学級経営について交流する。(人権特支研修会) | ・年2回以上の交流の機会を設ける | 96% | * | * | A | 年2回の研修会での交流はできた。配慮が必要な児童についての共通理解ができて意識して関わることができた。 | 4月の研修会では、共通理解の場として終わるのではなく、支援方法について意見交換などをする。2月の研修会では、児童の実態の報告のみにならないように、教師自身の指導方法などについて省みる資料を作成し、交流・勉強の出来る場となるようにする。 | ・情報交換等の交流を持つあらゆる取組は、支援学級在籍児童に対する温かい支援であり、手厚い体制の基礎にもなっている。 ・特別支援学校との交流は大変良い事業だと思う。今後も継続して欲しい。 ・特別支援学校との交流について、可能であるならば、保護者も一緒に交流する機会を作って欲しい。 | |
| | | ・特別支援教育支援員との連携体制 ・巡回相談など専門家チームとの連携 | ・支援員と児童や授業についての情報交換 | 100% | * | * | | 限られた時間の中ではあるが、支援員と担任が情報交換を行い、子どもへの支援内容を考えられた。保護者や担任からの相談について、巡回相談、総センなど必要に応じて専門家チームと連携し話し合うことができた。 | 特別支援教育支援員との連携が、さらに深まるように方法を模索していく。 | | |
| | | ・特別支援学級の児童理解 | ・情報交換会の実施(年1回以上) | 93% | * | * | | 年度当初に支援学級在籍児童の実態把握の研修会を行った。また、随時、学校と保護者で情報交換を行っている。在籍児童の増加で、1回の研修会で、全体を確実に把握することが難しくなっている。 | 部会等で情報交換された内容については、学年会等で話題にし共有していく。夏季研修会で、児童についての情報交換を行う。 | | |
| | | ・伊丹特別支援学校との学校間交流と校区交流とこやの里特別支援学校との地域交流 | ・交流の計画、実施 | 100% | * | * | | 学校間交流では、今年度は、3年生と実施。校区探検の時に伊丹特別支援学校の見学、鴻池小でゲームなどの交流を行った。また、観劇会や音楽鑑賞会と一緒にしている。校区交流やこやの里特別支援学校との地域交流では、定期的にクラスや学年、学校の行事など継続して交流が実施できた。 | 伊丹特別支援学校やこやの里特別支援学校と相談しながら、よりよい交流を実施していく。 | | |

No1

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|--|--|------|-----|-----|--|---|--|
| 豊かな心 を育む教育の推進 ④ | 生活指導月間目標の学校全体での共有及び実践推奨 | ・クラス、掲示板などで広めるとともに日々の声かけで実践していく | ・毎月校内に掲示するとともにふりかえりやめあてを促す機会を取る。 | 90% | * | 50% | 月間生活目標について、各担任に月ごとに学級で話をしてもらい内容例を共有することで、教員間での共通理解は成果が上がっている。子どもたち自身がより実感するための手立ては今後も必要。 | 子どもたち自身が自己評価する仕組みや、月目標に実践するための発達段階に応じた手立てを検討する。 | ・クラブ活動の年間回数がもう少し多くてもよいのではないかな。 ・あいさつ運動は継続してもらいたい。 ・心の教育は授業だけでは果たせないもののため、家庭への啓発を意図した取組は、今後も継続して欲しい。 ・人格形成の時期であるので、道徳教育は重視したい。 ・児童アンケートでほぼすべての子どもが「いじめ」を否定しているのは評価できる。 ・生活指導月間目標は、教師と児童との間で差が大きい。課題にもあるように子どもたちが意識して取り組めるような表示、呼びかけがあれば達成していけるのではないかな。 ・人権、健康参観は学年によって内容が異なり、それぞれの教師が副教材を準備したり、視覚教材を用いて工夫がなされている。にもかかわらず、勉強ではない参観(算数や国語ではない)だから、なんとなく恥ずかしいからと参観しない保護者がいるのは残念だ。健康参観がオープンスクールで土曜日に実施することで、平日参観できない保護者や父親が来校できることはいいことだと思う。 ・クラブ活動は異学年交流できるよい機会です、子どもにとっても楽しみの時間なので、これ以上回数が減らないようにキープして欲しい。 ・道徳の副読本は、音読の宿題にすれば、子どもと一緒に読み考えるきっかけになるのではないかな。 |
| | 問題行動事案が起きた時の対応 | ・問題行動が起きた時、管理職・学年・生活指導への報・連・相を行う。 | ・職員での共通理解ができる | 97% | * | * | 学年間・生活指導・管理職・必要に応じて関係機関との連携をしながら対応を進めることができた。全体での共通理解としては、詳細を確認することが難しいものもあった。 | 共通理解のためのツールとして、スズキ校務等を活用する方法を検討していく。 | |
| | 道徳の教科書と心シリーズ(副読本)の活用 | ・道徳の教科書・副読本を活用する | 長期休業を利用し、保護者と共に通読する | 100% | * | * | 教科化により評価も入り、教科書を利用することで、教師の道徳への意識も高くなった。教科書・副読本のカリキュラムを去年度に作っていたため、それに沿って授業を組むことができた。家庭での利用では、呼びかけが足りなかったのか、長期休業を利用した活用があまり十分ではなかった。 | 教科書・副読本の長期休業での、活用の見直し また、よびかけを十分に行うこと | |
| | 人権参観、健康参観を実施する | ・部会、学年で指導案を作成・実施した後、課題について検討する ・指導案集を作成し、次年度にいかす | ・人権、健康教育の系統だった指導を行う | 83% | * | * | 参観として実施することにより、家庭へ発信し、連携のきっかけとなっている。夏休み中に指導案検討ができるので、学年で時間をかけ授業を工夫することができた。指導内容を6年間の学習の流れと、系統だった指導ができています。 | 次年度も参観として実施する。学級懇談会で授業内容に触れる。家庭に向けたさらなる啓発のため講演会の実施計画を立てる。指導案の見直しや工夫を行う。 | |
| | クラブ活動の実施 | ・異学年交流を通して、なかまづくりを考える。年間6回実施する | ・異学年との交流について学ぶ | 96% | * | 72% | 異学年でグループを組んで活動することで、はじめは会話がなかったグループも徐々に打ち解け、協力しながら取り組めた。児童同士での交流は、同学年同士になりがちだったため、教師から意図的に声かけする必要があった。 | 教師から声かけをし、意図的に異学年交流がしやすいグループ作りをする。 | |
| 豊かな心・健やかな体 食育推進 ⑤ | あいさつ運動 | ・1ヶ月に2週間設定する | ・きもちのよい挨拶ができる児童を増やす | 88% | 92% | 76% | あいさつ運動でのあいさつの状況を集計し、グラフに表すことで、なかよし企画委員自身が意識し、取り組むことができた。自分からあいさつができる児童が少ないため、生活指導と連携していく必要がある。 | 次年度も、継続してあいさつ運動を実施していく。生活指導と連携して、教師からも児童に声かけをしていく。 | ・「食の指導」について教師間にルールはあるのか。行き過ぎた指導がないように注意したい。 ・好き嫌いが多く残す子どもも多いと聞くと、給食時間が少なくて食べ終わらない子の残食も多いのではないかな。無理にはできないが、苦手なもので3分の1は食べるようにするなど促していき、感謝の気持ちを持って食してほしいと思う。食に関する興味が薄れている。収穫体験や調理実習などを通してもっと食べ物のことを知り、興味を高めればと感じる。 ・一ロメモの活用が各クラスで難しいようであれば、放送委員に読んでもらうのも一つの方法かと思う。 ・朝の旗当番時でも自分から挨拶できるようになって欲しい。 |
| | 教材園で育てる体験の推奨 | ・年間を通して、学習とリンクさせ体験活動を通して利用する | ・体験活動の実践をはかり、自然を愛好する力を養う | 83% | * | * | 計画的に整備し、通年を通して何が植えられている状態を保った。年間計画を出すことで、何が植えられているか明確だった。児童の学年園への関りが少なかった。 | 学年園の年間計画にどのように児童が関わるかを記し、専科と担任で共有しておく。 | |
| | 給食センターとの連携 | ・ひとくちメモを給食開始時に広め、食について考える ・食育推進として招き、教えていただく | ・日々活用し、食に興味を持つ ・1年、2年で講師依頼(栄養士)し実施する(1年1回、2年3回) | 55% | * | * | ・栄養士に来てもらうことで、より興味深い内容の学習することができた。・ひとくちメモを各クラスに配布したが、あまり活用されていなかった。 | 配布するだけでなく、コメントを集めるなど啓発活動を行う。 | |
| | 給食委員会活動 | ・残飯を減らす呼びかけ、給食の片付け方などの呼びかけを行う。 | ・残飯を少しずつ減らし、美しい片付けができるようになる | 82% | * | * | 委員会活動を通して、残食をへらそう、完食しよう、という意識が高まった。 | 継続して委員会活動を行う。 | |
| 健やかな体作り ⑥ | 朝食の推奨 | ・朝食をとることを呼びかける | ・朝食について保護者アンケートの実施(90%目標) | 88% | 97% | 88% | 家庭学習頑張りカードと連携し、高い成果を得ることができた。 | 継続して呼びかけを行う。 | ・いたずらに外で遊べただけ言えば、友だちがいない児童には苦痛になるが、縄跳びなどテーマを与えて取り組んでいるところがよい。 ・子どもの外遊びが減っているのは実感している。外遊びの企画は続けて欲しい。 ・高学年になるほど業間休みに外で遊ぶ傾向が減少するのだろうか。クラスで学年で外遊びに積極的にいられるよう提供していかなければいけないのだろうか。体を動かし発散することで次の授業にも集中できるので、ぜひ外遊びを促してほしい。 ・クラスによっては「みんな遊び」の日を決めて、係が企画した遊びをするなど取り組んでいる。子どもは楽しみにしている。 ・外遊びをする子どもが増えるように企画を増やして欲しい。先生方も忙しいと思うが、一緒に遊ぶ日を増やして欲しい。 |
| | 業間休みの時間確保(25分)により、体作りの推奨 | ・学校のルールとして、休み時間は外で遊ぶ事を推奨 ・体育部が主として行う、体づくり推進企画(例)業間縄跳びなど | ・児童アンケート「外で元気に遊んでいる」で、90%以上を目標にする | 90% | 70% | 52% | ・業間縄跳びや委員会の企画などで、みんなが体を動かしている。 ・外遊びをしている児童が少ない。 | 委員会での活動や外遊びができるような企画をする。 | |

No2

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|-----------|----------------------|----------------------|------------------------------|------|---|-----|--|----------------------------|---|---|
| 開かれ信頼される学校園 | 情報開示 ⑦ | ・学校だより、学年だよりを月1回以上配布 | ・学校、学年だよりを発行する | ・発行(年10回以上) | 100% | * | A | 計画的に発行できた。 | 来年度も計画的に発行する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても積極的に発信していると十分に感じている。 ・十分評価できる。特に学校公開はコミュニティ・スクールとして重要な事業。 ・忙しい中で、お便りやHP、掲示板(校門前)など、よくして下さっているのが保護者だけでなく地域の人にもわかりやすく伝わっていてとても感謝している。 ・校長からの学校だよりでの学校の様子や課題等がわかりやすく拝見しているとともに、教頭からのHPや宿泊行事のリアルタイムの更新により、子どもの様子が手に取るように伝わってきてありがたい。また、毎朝のミマモルメでもその日の予定が配信されており、行事のことや子どもへのメッセージもあるので、毎朝子どもにメールの内容を読むようになった。 ・今年度のHPが毎日更新されているので、学校の様子、子どもの様子がよくわかっていいと思う。ミマモルメの方も下校時間だけでなく、+αの文章があるので、毎日ほっこりしながら読ませてもらっている。ありがたいと思う。 | |
| | | ・学校HPを全学年月1回以上更新 | ・各学年、更新を行う | ・更新(年11回以上) | 90% | * | | 教頭をはじめ、職員の協力により、ホームページを定期的に更新することができた。 | 来年度も職員が連携して更新する。 | | |
| | | ・宿泊行事の様子をリアルタイムで公開 | ・宿泊行事では定期的に更新する | ・宿泊行事中の更新3回以上 | 100% | * | | | 来年度も職員が連携して更新する。 | | |
| | | ・学校公開の実施 | ・行事や参観などで学校を開かれた場とする | ・毎月1回以上の学校公開(参観、懇談、体育大会、etc) | 100% | * | | 公開ができた。 | 今後も継続していくべきである。 | | |
| | 施設管理 ⑧ | ・活動しやすい環境の整備 | ・清掃活動を推奨する | ・ピカピカ週間を実施する(毎月2週間) | 91% | * | 85% | B | 子どもたちも積極的に活動に取り組むことができていた。 | 引き続き活動を行うが、掃除の時間に食い込まないように、時間管理の徹底をはかる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ピカピカ週間」はうれしい。清掃に対する児童の自主性を育てたい。 ・教室などはきれいに清掃できていると思う。 |
| | | | ・安全管理点検(月1回)を行う | ・管理責任者による点検(カードに記載) | 100% | * | * | | 月に一度安全管理点検を行うことができた。 | 引き続き、安全点検であげた箇所の補修は、スピードアップが望まれる。(特に、児童の安全に関わる部分) | |
| | 安全管理 ⑨ | ・校区内の安全確保 | ・緊急時のパトロールMAPを作成する | ・作成、活用 | 100% | * | * | A | 校区内の安全確保に努めることができた。 | 引き続きパトロールマップなどを活用し、校区内の安全確保に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者も含めて、このような児童の安全・安心に資する活動は、文化になるまで継続して欲しい。 ・評価できる。特に防犯訓練はしっかりと実施してもらいたい。 ・校区内は見通しのよいところが多く、比較的安全な地域だと言える。パトロールマップの活用など、改めて意識していくことで危機管理もできる。 ・校区内で不審者が出たとき、教職員がパトロールして下さり、感謝のことばしかない。 ・いつも子どもたちの安全に気を配っていただき、ありがたい。 ・これからも防犯訓練の実施をお願いしたい。 ・夏と冬のパトロールに参加していただき、ありがたい。 |
| | | ・防災訓練、防犯訓練 | ・年間を通して、訓練を計画的に実施する | ・計画、実施、反省 | 100% | * | 93% | | 計画的に実施することができた。 | 来年度も年間を通して計画を立て、実施していく。 | |
| | | ・朝、夏と冬のパトロール | ・市内一斉、地区ごとの活動 | ・PTA、地域と連携をとって実施 | 100% | * | * | | 連携を取りながら実施することができた。 | 来年度も連携を取りながらパトロール、登校指導を行っていく。 | |

No3

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った

| |
|---|
| <p>学校関係者評価総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が1人で判断、行動しないで済むチーム作り、システム作りがあればよい。 ・児童一人ひとりを見つめた温かな校風で、家庭に開かれた学校であると感じた。 ・おおむね評価できる。特に情報開示については十分に評価できる。ただし、SNSを重要視しすぎないように注意したい。 ・今年度は研究発表会もあり、忙しく大変だったと思うが、教職員一丸となって学力の向上、授業改善の工夫に勤めていただいたことは感謝する。クラスだけでなく、学年間で連携合って、研究会の成果を、今まで積み上げていったものを次年度につなげていってほしい。 ・基礎学力の向上、定着、そしてそれが応用力にもつながっていけるような指導と家庭でのよりよいサポートの双方で子どもたちを支えていく必要を改めて感じた。 |
| <p>次年度に向けた重点的な改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携した学力向上 ・家庭学習について 保護者の積極的なサポートを促す方策の検討 ・授業時数の確保 ・子どもたちの安全に向けての取組の継続 |

No4

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った